

拠点形成研究交流報告：乳腺免疫および授乳生理に関する UC Davis との国際共同研究を本格的に開始しました。

研究拠点形成事業「食の安全性の飛躍的向上を目指した農免疫国際共同研究拠点形成」では、アメリカの研究拠点としてテキサスA&M大学(拠点校)とカリフォルニア大学デービス校(協力校)が参加しております。3年目となる今年度は、テキサス A&M 大学との国際共著論文 (Cellular and Molecular Gastroenterology and Hepatology, in press, 2020) を発表し、さらなる国際共同研究を進展させることを確認したところであります。テキサス A&M 大学との共同研究では、ブタの免疫細胞が、個体として、免疫機能のみならず微生物環境、栄養代謝系にあたる影響を精力的に解析しており、これまでの研究を通して、ブタのリンパ球が免疫機能のみならず、免疫系以外の多くの役割を有していることを明らかにしてきました。一方、カリフォルニア大学デービス校との乳腺免疫および授乳生理に関する国際共同



研究も
今年度
より本格



的に開始されることになり、Russ Hovey 教授 (Department of Animal Science, Laboratory of Mammary gland Biology) の研究室に宇佐美克紀君が6週間滞在し、乳腺科学に関する研究をスタートさせました。今回は、共同研究を本格的に開始するにあたり、野地准教授も同行し、国際共同研究の方向性を様々

な角度から議論しました。宇佐美君の研究では、彼の課題である乳腺免疫に関する研究を、Hovey 先生の専門である授乳生理学的視点を導入することで学際的に展開する予定です。テキサス A&M 大学およびカリフォルニア大学デービス校は、農学研究が非常に活発であり、本研究拠点形成事業を通して、食と農免疫に関する国際共同研究がさらに飛躍すると確信しております。この場を借りて、JSPS の研究拠点形成事業からのご支援に感謝申し上げます。

野地智法 (東北大学大学院農学研究科、食と農免疫国際教育研究センター)